

三郷市産業フェスタに参加



↑ 来場者につきたて餅を振る舞う遠藤町長

11月19日、埼玉県三郷市で開催された三郷市産業フェスタ2016に参加しました。広野町は二ツ沼直売所組合の皆さんと販売ブースを出店するとともに、広野産の餅米を使ったつきたて餅の無料配布を行いました。遠藤町長は自ら餅をつき、来場者に餅を振る舞いました。三郷市とは平成20年7月に「災害時における相互応援に関する協定」を締結しており、町は継続的な支援に対する感謝と、農産物に対する風評被害を解消するため、この催し物に毎年参加しています。

ふくしまメガソーラー発電所から寄付金



↑ 遠藤町長に寄付金目録を手渡す藤田代表社員（写真左）

11月9日、合同会社ふくしまメガソーラー発電所の藤田代表社員（NECキャピタルソリューション(株)役員）は広野町役場を訪れ、今後20年間で広野町に3958万円を寄付することを遠藤町長に伝え、目録を手渡しました。合同会社ふくしまメガソーラー発電所は、NECキャピタルソリューションと広野町が共同出資で設立した会社です。

寄付金は、NECキャピタルソリューションと広野町の間で締結した協定に基づき、「広野町子ども未来基金」の原資として受け入れ、今後は教育環境の充実などに活用していきます。

東北電力相双営業所と大規模災害時の相互協力に関する協定を締結



↑ 協定締結式に臨んだ遠藤町長と星相双営業所長（写真左）

12月8日、広野町と東北電力相双営業所は、大規模災害時の相互協力に関する協定を締結しました。この協定は、平成21年4月に締結した「災害時における電力復旧のための拠点に関する協定」を基に、東日本大震災の教訓と反省を盛り込んだ新しい協定となっています。具体的には、停電発生時に町の防災行政無線での周知に協力するほか、町の業務遂行上で速やかな電力確保が必要な施設について優先的に復旧させることなどが加えられました。

東日本大震災復興チャリティープロレス代表の宮本和志さんが義援金を贈呈



↑ 遠藤町長に義援金を手渡す宮本代表（写真左）

11月28日、東日本大震災復興チャリティープロレス代表の宮本和志さん（富岡町出身のプロレスラー）が広野町役場を訪れ、11月3日に檜葉中学校体育館で開催された東日本大震災復興チャリティープロレスで募った募金やプロレス関連グッズの売上金の一部を、義援金として広野町に寄付しました。目録を受け取った遠藤町長は、イベント当日に観戦したことに触れて「被災地に元気を届けていただいたことに感謝します。」とお礼を述べました。

広野町消防団つなぎ放水訓練を実施



↑ つなぎ放水訓練の様子

11月12日、広野町消防団はふるさと農道などを利用し、つなぎ放水訓練を実施しました。つなぎ放水訓練では、火災現場から消火用水源が遠い場合を想定し、素早くホースを繋ぐ訓練が行われ、併せてホースやポンプの点検も実施されました。矢内団長の指揮で団員たちが機敏な動作で訓練し、遠藤町長も団員を激励しました。

再開交流事業「ひろのっこ交流会」が開催



↑ 交流イベントやゲームを楽しんだ子どもたち

11月26日、広野町の小中学生が集う再開交流事業「ひろのっこ交流会」が二ツ沼総合公園で開催されました。広野町の子どもたちのふるさとに対する記憶や絆を繋ぎとめ、子どもたちの未来にふるさと広野町を継承していくため、町の歴史、文化、風土を楽しみながら学べる取り組みとして、広野小中学校PTAの主催で開催されました。当日は児童生徒ら約120人が参加し、ドッチビーやビンゴゲームなどで交流しました。

内堀雅雄福島県知事が来町



↑ 広野産米のおにぎりを試食する内堀知事（写真中央）

11月24日、内堀雅雄福島県知事が広野町を訪れ、二ツ沼総合公園駐車場にある農産物加工施設や広野町社会福祉協議会などを視察しました。このうち、農産物加工施設では、ふるさと応援寄付金の返礼品として贈る広野町産特別栽培米で作った塩おにぎりを試食し、先月27日に皇居で行われた献穀献納式において広野町産の米が献上されたことに触れ、「広野の米は福島県の誇りです。」と述べられました。

オリーブの加工品の完成を報告



↑ 町役場を訪れた佐藤さんと馬上さん（写真左）

11月8日、町内でオリーブを栽培している「ひろのオリーブ村」の佐藤さんと馬上さんが来庁し、収穫したオリーブを使用した加工品を遠藤町長に披露しました。今年は約200本のオリーブの樹から15kgの実を収穫しました。この広野産オリーブは塩分濃度3%の塩漬けやキャンドルなどに加工され、今後はオリーブの葉のパウダーなどの加工品も作る予定とのことです。